

# 済生会、 新時代の10年

—創立101~110年—





# 済生会、 新時代の10年

—創立101～110年—

## CONTENTS

---

創立110周年記念式典 総裁おことば	4
済生会のあゆみ	
2011年 創立100年… 6	2017年 ……30
2012年 ……10	2018年 ……34
2013年 ……14	2019年 ……38
2014年 ……18	2020年 ……42
2015年 ……22	2021年 創立110年…46
2016年 ……26	

## 総裁おことば

本日、「済生会創立110周年記念式典」が、全国の済生会支部および施設からの参加を得て開催されることを誠に喜ばしく思います。そして、創立110周年特別表彰を受けられる方々にお慶びを申し上げます。

済生会は、明治44年、明治天皇の済生勅語により、社会に増大した困窮者に医療を行い、それによつて生を救うことを目的として創立され、御下賜金と全国の官民から寄せられた寄付金によって同45年から本格的に活動を開始いたしました。爾来110年の長きに亘り、「施薬救療」の創立の精神を引き継いで、医療と福祉の充実・発展のために多くの事業に取り組んできました。ここに本会を支えてこられた先人、そして皆様方のたゆまぬ努力と英知に対し深く敬意を表します。

この10年を振り返りますと、大きな自然災害の連続であったと思われます。私も2016年4月におこつ



済生会総裁・秋篠宮皇嗣殿下

平成から令和へと  
御代が代わった日本は、

災厄に見舞われた  
10年でもあつた。

その中で済生会は、

理念である  
「施薬救療」の

精神を再確認し、

その精神に新しいかたちを  
与えようと、

新時代の10年を歩み続けた。  
そして

令和4(2022)年2月27日  
創立110周年記念式典を迎える  
総裁・秋篠宮皇嗣殿下から

おことばを賜つた。

た熊本地震と2018年7月の西日本豪雨の後に被災地を訪れました。熊本地震のおりには、熊本病院自らが被災しながらも近隣施設の患者を引き受けるとともに、医療スタッフを派遣するなど懸命な救援活動を行つたと聞き、強く心を打たれました。また、西日本豪雨後には広島病院と特別養護老人ホーム、そして本会が活動を行つていた避難所を訪れましたが、大勢の職員が、自分自身も被災し元の生活を取り戻せる見通しが立たない中で、被災者支援に当たる姿を目の当たりにしたことは、鮮明な記憶として残つております。

さて、この2年、私たちはSARS-CoV-2という今まで知られていないかつたウイルスにより世界規模の脅威にさらされてきました。私は、このウイルスによるCOVID-19の感染者を、これまで機会があることに受け入れている複数の病院から、オンラインで説明を受けてきました

にありながらも一丸となり、一人でも多くの生を救うという使命感を持ち、献身的に医療に従事していることに深い感銘を覚えました。

現在、この感染症の拡大により、仕事を失い、孤独や孤立に陥り、生活に困窮する人々が増えています。本会はそのような人々を支えるため、生活困窮者支援事業「なでしこプラン」をさらに推進するとともに、新たにソーシャルインクルージョンの理念に基づいた、誰一人取り残さない「まちづくり」に取り組んでいます。この活動が今後もより一層大きな役割を果たしていくことを期待いたします。

終わりに、本日表彰を受けられる方々をはじめ、これまで済生会の活動を支えてこられた多くの方々に感謝の意を表するとともに、本会の活動が人々の健康と幸福により一層大きな役割を果たしていくことを願い、記念式典に寄せる言葉といたし

# 2011

平成23年 創立100年



山形済生病院 DMAT



済生会のあゆみ

3月11日

東日本大震災  
日本国内観測史上最大規模のマグニチュード9・0。死者は12都道県で1万5899人（震災関連死は除く）、行方不明者は2526人（警察庁）  
年3月1日現在  
済生会は直後、東京に「東北地方太平洋沖に係る災害対策本部」（本部長・炭谷茂理事長、山形済生病院に「現地連絡事務所」（所長・濱崎允院長）を設置。10病院のDMAT（災害派遣医療チーム）60人を各地に派遣。その後48病院から延べ426人の医師らを派遣したほか、高齢者福祉等の35施設で239人の高齢被災者を受け入れた。以降、数年にわたり、大阪府支部の医療ソーシャルワーカー（MSW）をはじめ個人ボランティアとして多数が被災地に赴くなどさまざまなかたちで支援を続けた

5月12、13日

東日本大震災復興支援のため総裁・寛仁親王殿下をはじめ役職員から募った義援金8539万5462円を岩手、宮城、福島の3県に分けて寄贈した。社会福祉法人としては寄付ができないことから、全役職員に個人募金を呼び掛けた

5月16日  
● 福島県の原発避難区域に近い川俣町に医療介護施設なでしこ保、養護老人ホーム川俣光風園がオープンした

5月30日

済生会創立100周年記念式典を、天皇皇后両陛下の行幸啓を仰ぎ、東京の明治神宮会館で開催した。常陸宮同妃両殿下、済生会総裁の寛仁親王殿下がご臨席。首相、両院議長、厚生労働大臣も出席した。本会は式典の天皇陛下のおことばを「新済生勅語」と位置付け、以後、新たな100年に向けた事業に取り組むことを決意した

天皇陛下おことば  
済生会が創立されて百年、ここに皆さんと供に、その記念式典に臨むことを誠に喜ばしく思います。

済生会は明治四十四年、「無告ノ窮民ニシテ醫藥給セス、天壽ヲ終フルコト能ハサルハ、朕力最

當時の我が国は、国勢こそ盛んになっていましたが、国民の中には生活に困窮して医療が受けられない人も多く、深刻な状態にありました。以後、済生会は長年にわたり、この「命を救う道」を広めるという目的の下、たゆみない努力を続け、各地域における医療と福祉の向上に多大な貢献をなしました。ここに今日に至る済生会の歴史の中で、その活動を支えてきた多くの人々の努力に深く敬意を表します。

先の東日本大震災においては、済生会の各地の病院からもいち早く医療関係者が被災地に赴き、現在も引き続き支援が行われていることを誠に心強く思っています。大津波による壊滅的被害が広範囲



転念シテ措カサル所ナリ、乃チ施薬治療、以テ済生ノ道ヲ弘メムトス」という明治天皇の勅語を体して創立されました。

当時の我が国は、国勢こそ盛んになっていましたが、国民の中には生活に困窮して医療が受けられない人も多く、深刻な状態にありました。以後、済生会は長年にわたり、この「命を救う道」を広めます。

私どもは、いくつかの地域で被災者を見舞う機会を持ちましたが、その折、少なからぬ被災者から、救援の人々に支えられていることに対する深い感謝の気持ちを告げられました。そうした中に、済生会の救援活動も大きな役割を担っていたことと、感謝しています。

自然災害の危険が常に存在し、高齢化が進んでいるわが国の社会にあっては、困難な状況に置かれている人々を支えていく済生会の活動は、極めて重要であります。済生会が長年にわたって積み重ねた経験を今後に生かし、済生会の活動が人々の幸せに一層資するようになることを願い、お祝いの言葉といたします。

済生会は明治四十四年、「無告ノ窮民ニシテ醫藥給セス、天壽ヲ終フルコト能ハサルハ、朕力最



済生会臨床研修指導医ワークショップ(SWS)  
は、医師が研修医を指導できる公的な資格を得るための研修システム。SWSはハードだが内容が充実しているとの定評がある



## 済生会のあゆみ

12月9日	香川県高松市で第64回済生会学 会・平成23年度総会。豊田章一 郎会長が「済生会の果たすべき 役割は以前よりはるかに増して いる」とあいさつした	10月22、23日	富山県地域生活定着支援センタ ー開設。センターは高齢や障害 のある刑務所等出所者が地域社 会で暮らしていくよう支援す る都道府県の機関。大分、福井 に続き3県目	9月5日	東日本大震災復興特別委員会を 設置、済生会独自の継続的支援 策の検討に入る	8月30日～9月5日	台風12号による集中豪雨。紀伊 半島を中心に全国20府県で死 者・行方不明者98人	7月25日	炭谷理事長らが京都・伏見桃山 陵を参拝し、明治天皇の墓前に 100周年を迎えたことを報告	7月16日	（大阪）野江病院の新築落成式。 5月に移転新築した	7月13日	皇太子殿下が「山形」特別養護 老人ホームながまち荘をご訪 問。宮城県石巻市から避難して いるお年寄りをお見舞いされた
-------	--	-----------	---	------	---	------------	---	-------	--	-------	------------------------------	-------	---



この生活を  
楽しんでください

総裁寛仁親王殿下、  
(三重)重症心身障害児施設  
なでしこご視察

総裁寛仁親王殿下には平成22年12月3日、明和病院・なでしこ(重症心身障害児施設)のご視察を賜りました。樋口和郎施設長の先導で記念の合歓の木をお手植えいただきました。在宅の重症者の通園棟では寝たきりの利用者が、職員の歌に合わせエアートランポリンの上でおむけになって楽しんでいました。歌が終わり皆で挨拶申し上げますと、殿下から「ここにちは」とお言葉をかけていただきました。

入所フロアのプレールームは30人の利用者とご家族20人、職員でいっぱいです。シャワーボールとスカイバルーンの療育活動をご覧いたきました。殿下は深い関心を示され、活動の効果などを尋ねられました。

重症児のほとんどは言葉をしゃべれませんが、1人だけ話ができる寝たきりの河村清喜さんを紹介しますと、殿下は膝をつかれ「お

年はいくつですか」とお尋ねになりました。「47歳です」と答えると、殿下は「まだ若いですね、ここ的生活を楽しんでください」とお言葉をかけてくださいました。施設長が「電動車いすに腹ばいになつた」とお言葉をかけていただきました。

最後に、超重症児7人がスタッフと音楽活動をしている様子をご観察されました。一人ひとりの病状をお聞きになり、気管切開をしている利用者には笑顔で「私と同じですね」と、ご自身ののどを見せになられました。

お発ちの際、殿下はお見送りの入居者、ご家族、職員それぞれに手を振られ、お車に乗り込まれてからも窓を開けて名残惜しそうに手を振つてくださいました。殿下的気さくで心温かいお心遣いを感じながら、職員一同はさらなる努力を誓うことができました。

(なでしこ事務長 大友正明)  
II記事を再構成



2012  
平成24年



〈兵庫〉特別養護老人ホームふじの里、街で暮らすお年寄りを支える「高齢者目配り紹サポーター」が発足



号外1面

号外2面



斂葬の儀  
(宮内庁提供)

6月14日

総裁追悼の「ニュース済生」号  
外を発行

6月6日

総裁・寛仁親王殿下が午後3時  
35分、東京都千代田区の病院で  
薨去された。66歳だった  
問らが松側者として参列



済生会のあゆみ

3月16日

障害者福祉サービス事業所りんくうワークスが大阪府泉南市にオープン。障害者を雇用し、大阪府にある済生会8病院のリネンのクリーニング事業などを行う

5月30日

「社会福祉法人恩賜財団済生会100年誌」を刊行  
薬企業に向けた初の説明会開催。27社から33人が出席



福岡市内の公園で福岡総合病院がホームレスの人たちを対象にインフルエンザワクチンを無料接種



大分県地域生活定着支援センターの支援員が少年院を出る少年の受け入れ先を北海道に見つけ、法務省に少年を大分から北海道に移送してもらって退院を引き受け、施設まで送る



東日本大震災による福島原発事故で、滋賀県病院の放射線技師が支援に訪れ、放射能測定



東日本大震災で津波被害を受けた〈岩手〉岩泉町小本の仮設住宅に診療所開設



大阪の日雇い労働者の街・金ヶ崎地区で大阪府支部8病院が合同で無料健診。結果が「要受診」の人には後日、医師が診察、または病院を紹介



〈埼玉〉川口総合病院が河川敷を巡回し、ホームレスの人たちに健診や健康相談

済生会のあゆみ	
12月 22日	初の生活困窮者問題シンポジウムを開催。「今、貧困を考える」をテーマに東京都港区の明治学院大学で
10月 20日	月刊の機関誌「済生」が通巻1000号に。記念して「働く写真コンテスト」を実施
10月 13、14日	京都市で第65回済生会学会・平成24年度総会を開催
9月 6日	第1回済生会中央治験審査委員会開催。2薬品の治験が承認され、共同治験がスタート
8月	済生会の10年間のマスタープランである第四次基本問題委員会報告書に盛られた事業を具体化するため初めて5年間の「中期事業計画」を年度内に策定することを決定
7月 11～14日	平成24年7月九州北部豪雨。北部九州5県で死者・行方不明者32人。全壊227棟を含む倒壊被害のほか、河川の堤防決壊や護岸崩壊が発生したことにより、床上浸水4492棟、停電や断水等は5万戸以上

# 2013 平成25年

アフガニスタンから外科医が研修のため2ヶ月間、岡山済生会総合病院に。重さ75kgの超音波診断装置をお土産に持って帰り、後日、その診察風景を送ってくれた



福井県済生会病院に日本経営品質賞（日本生産性本部主催）。職員300人以上の大規模部門での医療機関の受賞は日本で初めて



本部と病院が一体となった初の災害救援活動訓練。全国6ブロックの災害基幹病院と準基幹病院が参加した。東日本大震災を受けて前年、改訂した災害救援活動規則に基づく救援活動が滞りなく行われるか検証するのが目的



5月12日の看護の日にならみ（埼玉）栗橋病院で明治時代から現代までの看護服ファッションショー。モデルの現役看護師の決めポーズにロビーは大歓声



3月11日　日本で初めてのDCAT（災害派遣福祉チーム）が済生会に設置され、山形市で第1回の訓練が行われた  
2月27日　災害対策で本部事務局と6基幹病院・9準基幹病院が参加した初めての災害訓練。東海地震を想定

## 済生会のあゆみ

8月8日	瀬戸内海の離島を巡る診療船「済生丸IV世号」が神戸市の金川造船所で進水。厚労省の原徳壽医政局長が「まだ残っている医療確保の地域格差の解消に活躍を」と祝辞
8月1日	北海道・小樽病院が小樽市築港地区に移転新築の運営を開始
4月1日	秋篠宮殿下が済生会の第6代総裁に就任。炭谷理事長が「大変、光榮なこと。新総裁の下、済生会の使命達成に向けて精進してまいります」と談話を発表
3月15日	済生会の広報を担う「済生記者制度」が済生会に設立され、東京で初めての研修を実施
2月21日	組織改正検討委員会報告書がまとまり、阿部志郎委員長が炭谷茂理事長に手渡した。支部業務担当理事が支部長となり、また主な施設長の任命を審査する人事委員会の設置など権限の強化・責任の明確化を図る全面的な組織改革となる
2月11日	法人のホームページが本部総務課から広報室に移管、全面リニューアル



熊本病院が米国の国際医療機能評価機関（JCI）の認証を取得。安全確保、感染拡大防止など1220項目をクリアし、患者は自分の受けている医療が国際水準にあるのを知ることができる。国内7番目、西日本で初



大阪府済生会がハンセン病回復者支援センター事業を府から受託。高校生や看護学生が夏休みに国立療養所を訪問、入所者から体験談を聞く交流会などを開催



## 済生会のあゆみ

10月 14～16日	西日本から北日本の広い範囲で台風第26号による暴風・大雨。死者・行方不明者43人。住家全半壊147棟
10月 26、27日	第66回済生会学会・平成25年度総会が東京で開催された。総裁秋篠宮殿下が初めてご臨席され、おことばを賜った
10月 31日	炭谷理事長が和歌山市で開かれた第70回全国老人福祉施設大会でシンポジウムのコーディネーターを務め、政府の規制改革推進会議で「社会福祉法人は内部留保をため込み過ぎている」と批判されていることに反論。「日本最大の社会福祉法人である済生会は全国で法が求める以上の責務を果たしている」と訴えた。また、松原了理事も別のシンポジウムで反論し、4年後の社会福祉法改正に本会の主張が盛り込まれた
11月 4日	初めての済生会リハビリテーション病院新築。病院機能を一新し、回復期リハ専門病院としてオープン
10月 14～16日	愛知県済生会リハビリテーション病院新築。病院機能を一新し、伊豆大島を中心とした土石流などにより1都3県で死者・行方不明者43人が来場
12月 27日	済生会の根幹事業である無料低額診療事業の「ガイドライン」を初めて策定し、各施設に配付。2、3月には、職員が日常業務で活用するための説明会を開催



〈神奈川〉横浜市東部病院ハートチームによるTAVI（経皮的大動脈弁留置術）手術開始。内科・外科の垣根を越えたチーム医療



福井県済生会「ひなぎく」  
オープン記者会見



〈愛媛〉今治病院で病院見学会。訪れた高校生が病理診断室で10人用のディスカッショングループにトライ



茨城県立こども病院で、ボランティアたちがハロウィーンパレード。入院中の子どもたちを元気づけてくれた



〈神奈川〉平塚市袖ヶ浜デイサービスセンターが七夕飾りコンクールで「一等賞」に。14回目の挑戦で感激の初栄冠



熊本県が地域生活定着支援センターの業務を熊本県済生会に委託。右は須古博信支部長

# 2014

平成26年

**3月11日**  
初の共同治験実務者研修会

4月1日

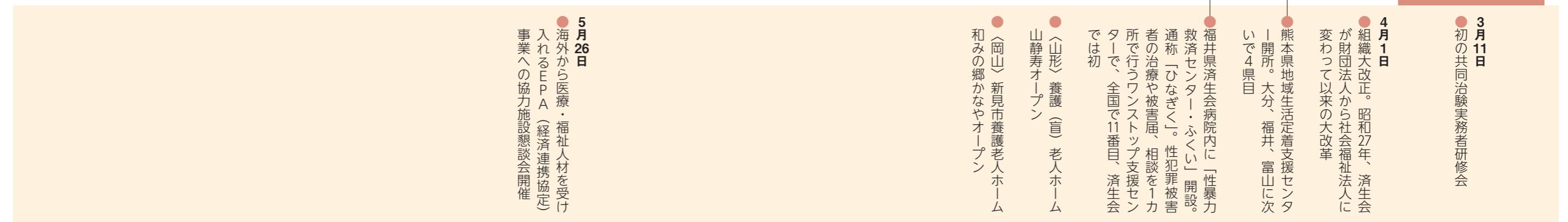
組織改正。昭和27年、済生会が財団法人から社会福祉法人に変わって以来の大改革

熊本県地域生活定着支援センター開所。大分、福井、富山に次いで4県目

福井県済生会病院内に「性暴力救済センター・ふくい」開設  
通称「ひなぎく」。性犯罪被害者の治療や被害届、相談を1カ所で行うワンストップ支援センターで、全国で11番目、済生会では初

〈山形〉養護（盲）老人ホーム山静寿オーピン  
和みの郷かなやオーピン

5月26日  
海外から医療・福祉人材を受け入れるEPA（経済連携協定）事業への協力施設懇談会開催





10月15日

総裁・秋篠宮殿下が愛媛県松山港に寄港中の瀬戸内海巡回診療船「済生丸」を初めてご視察



静岡済生会総合病院で、院内暴力を防ぐ訓練



〈大阪〉泉尾特別養護老人ホーム第二大正園で夏祭り。地域の高齢者を孤立させないよう招くイベントもある



団地の高齢者を孤立から防ぐ兵庫県支部「なでしこ暮楽部有野台」の活動。普段からお年寄りと顔なじみになっておくことが重要なポイント



〈大阪〉吹田医療福祉センターの岡上武総長が日本肝臓学会総会で「織田賞」を受賞。非アルコール性脂肪肝炎（NASH）の研究をけん引した業績が認められる

## 済生会のあゆみ

<p><b>8月20日</b></p> <p>広島豪雨土砂災害。広島市北部の安佐北区や安佐南区の住宅地などで発生した大規模な土砂災害で77人死亡。全壊179棟、半壊217棟</p>	<p><b>9月27日</b></p> <p>岐阜・長野両県にまたがる御嶽山で噴火。死者・行方不明者63人、戦後最悪の火山災害</p>	<p><b>10月15日</b></p> <p>総裁・秋篠宮殿下が愛媛県松山港に寄港中の瀬戸内海巡回診療船「済生丸」を初めてご視察</p>
--	---	---



秋篠宮同妃両殿下が〈神奈川〉横浜市東部病院と重症心身障害児（者）施設サルビアをご訪問。手術支援ロボット「ダヴィンチ」を見学、体験された（左は中島洋介副院長）



2015  
平成27年



ダナンがん病院で覚書を交わした後、チャン院長と炭谷茂理事長は笑顔で握手



園田・新会長



岡留・前会長



新「済生」

<p><b>7月1日</b></p> <p>ベトナム・ダナンがん病院と済生会が「ヘルスケア連携事業包括覚書」に調印。法人として行う初めての海外協力事業</p> <p>（栃木）宇都宮病院内に「どちぎ性暴力被害者サポートセンター」（通称「どちエール」）を開設。ワンストップで性暴力被害者を支援するセンターは済生会では福井県済生会に次いで2番目</p>	<p><b>6月27日</b></p> <p>全国済生会病院長会長に（佐賀）唐津病院・園田孝志院長が総会で選出。福岡総合病院の岡留健一郎院長の後任</p>	<p><b>4月28日</b></p> <p>滋賀県病院でドクターへりが就航。運営を担当するのは（茨城）水戸済生会総合病院に次いで2院目。滋賀・京都をカバーし、その後、福井県の一部にも拡大</p>	<p><b>4月10日</b></p> <p>機関誌「済生」が50年ぶりに全面リニューアル。判型をB5からA4判に、時代に合わせて写真を主体に</p>	<p><b>2月14、15日</b></p> <p>福岡市で第67回済生会学会・成26年度総会</p>
---	---	--	---	---



〈大阪〉吹田病院小児科・小川哲医師は地元小学校に出向き、命の大切さを教えている。「ドクターてつ」の出前授業として子どもたちに人気



倉庫を改装した仮設の陸前高田診療所。炭谷理事長らがテープカット

オープン第1号の患者さんを問診する伊東紘一所長



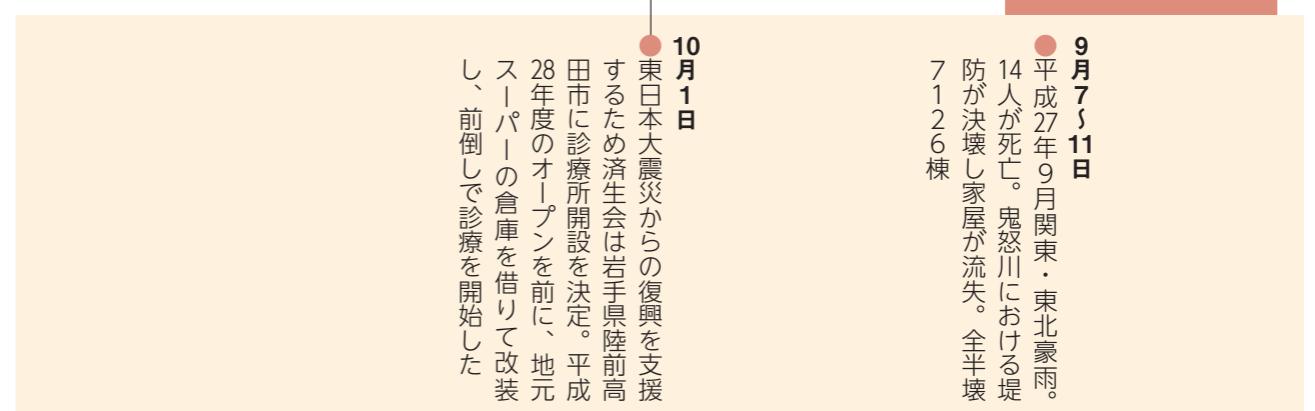
日雇い労働者向け宿泊所が建ち並ぶ横浜市寿地区で無料健診。神奈川県済生会の5病院と静岡済生会総合病院が協働し、(栃木)宇都宮病院と(埼玉)川口総合病院からも参加



### 済生会のあゆみ

9月7・11日 平成27年9月関東・東北豪雨。14人が死亡。鬼怒川における堤防が決壊し家屋が流失。全半壊7126棟

10月1日 東日本大震災からの復興を支援するため済生会は岩手県陸前高田市に診療所開設を決定。平成28年度のオープンを前に、地元スーパーの倉庫を借りて改装し、前倒しで診療を開始した





熊本福祉センターで被害の説明を受けられる殿下



総裁・秋篠宮殿下が熊本病院で職員にお声がけ



熊本病院・患者の救急搬送

# 2016

平成28年

## 熊本地震

**認知症支援ナース研修  
2回で207人が修了**

済生会独自の「認知症支援ナース育成研修」が7、8月の2回開催され、計207人が修了した。今年度中にさらに2回開かれる予定。

平成28年度の診療報酬改定で新設された「認知症ケア加算2」では、「適切な研修」を修了した看護師を全病棟に複数名配置することが求められ、済生会の研修もこの「適切な研修」の中に含まれている。

プログラムは2日間の日程で、1日目に炭谷茂理事長の基調説明「2025年問題と済生会の研修もこの「適切な研修」の中に含まれている。」

4回を10月に行う。（看護室）



山口地域ケアセンターが山口刑務所内で開く介護職員初任者研修で、炭谷理事長が受刑者に講義



震災直後から熊本病院のロビーにトリアージブースを開設



## 済生会のあゆみ

4月14日	熊本県で大地震。熊本県では最大震度7を観測、死者は災害関連死含め276人。大分県と合わせ4万3000棟以上が全半壊し、避難者は最大20万人に上った。済生会本部（東京）に対策本部、熊本県支部に連絡事務所を設置して支援活動を開始。また、西日本の済生会病院からDMA-Tが派遣された
4月19日	済生会独自のDCAT（災害派遣福祉チーム）が初出動して支援に当たった
5月18日	炭谷茂理事長が熊本病院、児童発達支援センターなどを訪問。震災被害状況の説明を受けられた後、職員を激励された
6月1日	総裁・秋篠宮殿下が熊本病院、熊本福祉センターを訪問。震災被害状況の説明を受けられた後、職員を激励された
7月20日	役職員から募った熊本地震への義援金277万3199円を熊本県に寄付
7月28日	公的な資格である認知症支援ナースを育成する済生会の研修がスタート



2月27、28日 大阪市で第68回済生会学会・平成27年度総会を開催



NICU（新生児集中治療室）がある周産期センター

済生記者 木村葉子

## 秋篠宮同妃両殿下 静岡をご訪問

静岡の本会病院と障害者施設

両殿下は、松原了理事、静岡県済生会・石塚隆夫支部長、同院・石山純三院長、同センター・森山明夫センター長から各施設の概要説明を受け、院内を回られた。

はじめに、多人数用の高気圧酸素治療装置をご見学。水中に潜るダイバーに発症する減圧症の治療に使われる等の説明を石山院長から受けられた。

はじめに、多人数用の高気圧酸素治療装置をご見学。水中に潜るダイバーに発症する減圧症の治療に使われる等の説明を石山院長から受けられた。

両殿下は、松原了理事、静岡県済生会・石塚隆夫支部長、同院・石山純三院長、同センター・森山明夫センター長が出迎える中、午後2時40分頃、同院に到着。石山院長と森山センター長から各施設の概要説明を受け、院内を回られた。

はじめに、多人数用の高気圧酸素治療装置をご見学。水中に潜るダイバーに発症する減圧症の治療に使われる等の説明を石山院長から受けられた。



〈大阪〉吹田特別養護老人ホーム高寿園では、全盲の介助補助職員を採用。会議録のテープ起こしや入居者の話し相手などを担当し、毎日のバス通勤には地域の人たちも協力



〈茨城〉水戸済生会総合病院の口ビーでは、8月下旬に「晩夏の茶会」を開催。患者さんやご家族は思わず接待に笑顔



再開した山木屋診療所  
で大庭敬所長の診察



12月13～16日  
総裁・秋篠宮同妃両殿下が、静岡済生会総合病院と静岡医療福祉センターをご訪問。紀子妃殿下は同病院でお生まれになつた年で500人養成する計画

10月25日  
鳥取県中部地震。震度6弱、32人負傷、1万5425棟に被害

10月4日  
台風被害を受けた（岩手）岩泉島原子力発電所の事故で避難区域に指定され、休止していた川俣町の山木屋診療所が5年4カ月ぶりに再開

## 済生会のあゆみ

10月3日  
東日本大震災に伴う東京電力福島原発事故で避難区域に指定され、休止していた川俣町の山木屋診療所が5年4カ月ぶりに再開

# 2017

---

## 平成29年



長野保育園。保育士さんのおなかが大きくなっていくのを不思議がる園児に、赤ちゃんが生まれてくることを説明

### 済生会のあゆみ

1月 28、29日	横浜市で第69回済生会学会・平成28年度総会を開催
2月 15日	東日本大震災からの復興を支援する〈岩手〉陸前高田診療所が完成し、診療を開始
3月 31日	済生会保健・医療・福祉総合研究所（済生会總研）が東京都港区の三田国際ビル26階にオープンした。所長は炭谷茂理事長
4月 1日	元文部大臣の有馬朗人氏が、初代・桂太郎首相以来の第13代会長として就任し、在任は戦後最長の22年半に及んだ。「全国に支部のないところがあつたのは残念ですが、済生会の活動は今後ますます重要な」
5月 16日	「社会福祉法等の一部を改正する法律」が施行。評議員会の必置化、会計監査人の導入、余剰財産を福祉の充実に充てるなど、法人のガバナンス強化と福祉・介護・保健・医療に限らない生活課題の解決に向けた地域貢献への責務が盛り込まれる

総裁・秋篠宮殿下が（東京）中央病院をご訪問。完成したばかりの新主棟やハイブリッド手術室などをご覧になった（右は高木誠院長、左は廣谷隆副院長）

豊田章一郎会長が退任。経団連会長として就任し、在任は戦後最長の22年半に及んだ。「全国に支部のないところがあつたのは残念ですが、済生会の活動は今後ますます重要な」

元文部大臣の有馬朗人氏が、初代・桂太郎首相以来の第13代会長に就任。元東大総長で原子核物理学の専門家、俳人としても知られている

「社会福祉法等の一部を改正する法律」が施行。評議員会の必置化、会計監査人の導入、余剰財産を福祉の充実に充てるなど、法人のガバナンス強化と福祉・介護・保健・医療に限らない生活課題の解決に向けた地域貢献への責務が盛り込まれる



〈大阪〉 泉尾特別養護老人ホーム大正園で年末恒例のもちつき大会。家族会の協力で100人分をつきあげ、ぜんざいや雑煮に



11月20日  
初のDCAT研修に34人が参加

10月3日  
〈滋賀〉 守山市民病院が済生会に移管されることを理事会が承認

8月1日  
〈茨城〉 神栖済生会病院と鹿島労災病院が統合し、済生会が経営を受けることを理事会が承認

7月5～6日  
九州北部豪雨。福岡県と大分県を中心とする九州北部で発生。猛烈な雨で、山間部の中小河川が氾濫し、土砂崩れ等が発生。37人死亡、行方不明者4人

7月4日  
2016年の台風10号で休診していた〈岩手〉岩泉町の安家診療所が再開。岩泉病院の柴野良博院長が診察

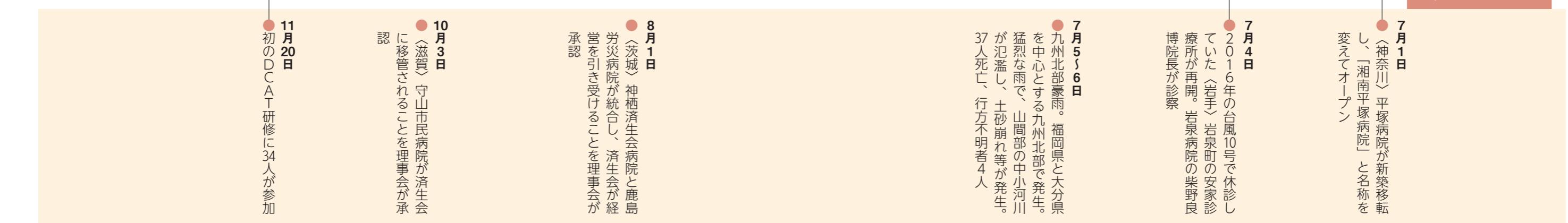
7月1日  
〈神奈川〉 平塚病院が新築移転し、「湘南平塚病院」と名称を変えてオープン



〔大分〕 日田病院が九州北部豪雨で被災した日田市内の避難所で巡回診療



## 済生会のあゆみ





静岡済生会看護専門学校で戴帽式。一人ずつナースキャップを授かり、ナイチンゲール像の灯をそれぞれのキャンドルに移し、看護への決意を新たに



2018  
平成30年

福島総合病院。原発事故避難者の「しのぶ台浪江町仮設住宅」で最後の訪問健康相談。2011年10月からほぼ毎月、訪問。3月12日のこの日が77回目だった



山口地域ケアセンターに、刑務所等から出所した女性が帰住先を探すための自立準備ホーム「なでしこ女子寮」が5月にオープン。地域の支援センターの職員7人が交代で生活指導、買い物への同行などに当たる



大阪市で開かれた第7回介護甲子園で、〈山形〉特別養護老人ホームながまち荘が施設部門で日本一に。EPAによるインドネシア人介護職を含む職員が一体となり、入居者のオムツや褥瘡など七つのゼロに取り組む「007」作戦が評価された

### 済生会のあゆみ

2月17、18日	● 済生会80番目の病院として横浜市に東神奈川リハビリテーション病院が開設。横浜通信病院を譲り受け、国が進めるスマートリハ構想の拠点病院の一つに
4月1日	● 福岡市で第70回済生会学会・平成29年度総会を開催。担当は熊本だつたが、熊本地震の影響で急きよ変更
4月9日	● 「滋賀」守山市民病院が守山市から済生会に移管され、済生会81番目の病院としてオープン。第2期中期事業計画がスタート
6月1日	● 埼玉県鴻巣市のJR鴻巣駅ビルに、なでしこメンタルクリニック開設。済生会初の精神科クリニック
4月9日	● 島根県西部地震。負傷者9人、家屋被害630棟



済生会唯一の児童養護施設〈静岡〉川奈臨海学園で5歳の子どもたちが七五三のお参り。しあわせになりますように



広島病院では職員を激励される



たかね荘こやうらで入居者にお声



## 大阪北部地震・ 西日本豪雨



### 済生会のあゆみ

6月18日	午前7時58分、大阪北部地震が発生。大阪市北区、高槻、枚方、茨木、箕面の5区市で最大震度6弱を記録し、近畿・四国7府県で死者4人、負傷者400人以上、家屋全半壊2万棟。電気・ガス・水道・鉄道がストップし、大都市はマヒ状態に陥り、大阪・茨木病院では職員が階段リレーで地下から7階まで配膳した
6月28日～7月8日	西日本豪雨。住家被害は、損壊・浸水家屋を合わせて5万棟近くに達するなど、広域で甚大となつたほか、死者・行方不明者は245人にのぼり、平成以降の風水害としては最悪の人的被害となつた
7月26日	総裁・秋篠宮殿下が西日本豪雨で被害を受けながら支援活動を行つた広島病院と、〈広島〉特養たかね荘こやうらをご訪問。被災者や職員らを激励された
9月1日	岡山済生会外来センター病院が済生会82番目の病院としてスタート
9月6日	北海道胆振東部地震。北海道胆振地方中東部を震源に、最大震度7を記録する地震が発生。44人死亡、重傷者51人、全壊491棟、半壊1181棟
10月2日	秋篠宮同妃両殿下が山口地域ケンセンターをご訪問。3日に山口市で開かれた全国都市緑化祭にご臨席の前に
10月12日、25日	国連の持続可能な開発目標（SDGs）と第2期中期事業計画をリンクさせた事業実施プランを策定し、理事会、評議員会で承認
11月19日	大阪府の北大阪健康医療都市づくりに合わせ吹田市JR岸辺駅前に済生会吹田病院の健都健康管理センターがオープン
11月17～18日	〈大阪〉中津病院で近畿プロック単位の施設が参加する初の大規模災害訓練実施



茨城県立こども病院の小児虐待防止医療チーム



医学生が〈岩手〉陸前高田診療所の訪問診療を見学。へき地・津波被災地での診療を体験学習



# 2019

平成31年・令和元年

（埼玉）川口総合病院では「子ども療養支援士」が大活躍。検査で動かないよう納得させたり、注射の際にあやしたり、子どもの目線で治療をサポート



イオンモールの岩本馨副社長（左）と協定書を交わす炭谷茂理事長



## 済生会のあゆみ

2月23、24日	富山市に「乳児院はやぶさ」オープン。済生会7番目の乳児院
4月10日	天皇陛下が退位し、皇太子殿下が126代天皇陛下に即位、元号は「令和」となった。先の陛下は上皇陛下、総裁・秋篠宮殿下は皇位継承第1位の皇嗣殿下となられた
5月1日	天皇陛下が江津総合病院が地元師会と社団法人（現・地域医療連携推進法人）江津メディカルネットワークを設立。病院と医師会が協力して医療人材の確保に当たる
5月9日	済生会がイオンモール株式会社と協働して「まちづくり」に貢献する協定を締結。全国規模で医療と商業施設が提携するのは日本で初めて
6月2日	天皇皇后両陛下が済生会の運営する愛知県三河青い鳥医療療育センターをご訪問。入所児にお声を掛けられた
6月10日	（島根）江津総合病院が地元師会と社団法人（現・地域医療連携推進法人）江津メディカルネットワークを設立。病院と医師会が協力して医療人材の確保に当たる
6月18日	山形県沖地震。負傷者43人、住宅損壊1608棟
7月1日	（茨城）土合クリニックがオープン。神栖済生会病院と統合した鹿島労災病院の敷地に済生会のクリニックを新設
8月26～29日	長崎・佐賀・福岡に集中豪雨。死者4人、重傷者3人、家屋被害6718棟



和歌山病院の岡田紗枝整形外科医長が脊椎内視鏡下手術・技術認定医に。同認定医は全国に 165 人いるが、女性は初めて



〈岩手〉 北上済生会病院でふれあい看護体験。中高生 25 人が看護服を着て新生児を抱っこ



〈熊本〉 しらふじ子ども園。近所のお店や病院、消防署などを訪問して花束をプレゼント



秋篠宮皇嗣殿下ご一家が手づくりされたガウンと手書きのメッセージ



5月15日	秋篠宮皇嗣殿下ご一家と宮家職員がボリ袋で手づくりされた医療用ガウン100着を、手書きのメッセージも添えられて（東京）中央病院に贈られる
5月11日	総裁・秋篠宮皇嗣同妃両殿下に済生会の新型コロナ感染症の対応をテレビ電話でご説明
4月1日	4月のホームページのPV（ペイジビュー）が440万回を記録。トップページに初めて動画を採用
3月13日	福祉施設長退任者に名誉施設長の称号を授与することを決定。これまで病院の院長のみ
3月4日	新型感染症がパンデミック（感染爆発）として全世界に広がる中、有田病院と和歌山県は徹底した院内感染対策で抑え込み、その対応策は海外でも高く評価された。院長が安全宣言をしてすべての業務を再開した
2月8、9日	新潟市で第72回済生会学会・令和元年度総会。席上、イオンモール・地元市と協力してまちづくりを進める（富山）高岡病院に第1回済生会令和賞が贈られた。学会開催を地元にピアノする学会記念の市民講座を初めて開催



病院で初の院内感染を確認した（和歌山）有田病院の伊藤秀一院長が大勢のマスコミを前に安全宣言



看護部長会と福祉施設長会がコラボ。各病院の皮膚・排泄ケア認定看護師がスキン・テア（皮膚裂傷）への対応策をネット上やパンフレットにまとめ、高齢者施設の職員向けに発信した。コラボは感染対策にも発揮され、コロナ禍でも機能した



（東京）中央病院附属乳児院でクラスターが発生。職員が自宅待機となつたため陰性だった21人の乳児の世話をする人がいなくなつた。同病院は急きよ外來の停止や病床を削減して看護師を派遣。2週間、昼夜交代で養育に当たり、子どもたちを守った

## 新型コロナ ウイルス感染症

### 済生会のあゆみ

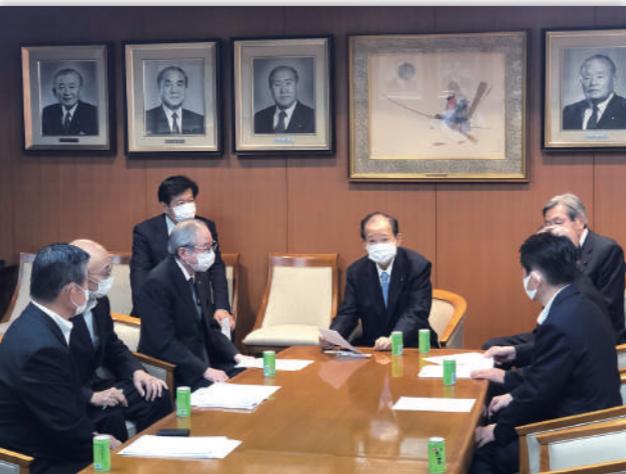
新潟市で第72回済生会学会・令和元年度総会。席上、イオンモール・地元市と協力してまちづくりを進める（富山）高岡病院に第1回済生会令和賞が贈られた。学会開催を地元にピアノする学会記念の市民講座を初めて開催

2月8、9日

2月13日



全国で初めての ECMO（人工心肺装置）搭載ドクター カーが〈栃木〉宇都宮病院に。小倉崇以救命救急センター長（中央私服）は ECMO のスペシャリストとして多くのメディアに登場し、首相官邸でも説明



自民党・二階俊博幹事長に  
公的病院三団体が要望書



大阪乳児院が産前  
産後の母子支援事  
業「おくるみ」を  
開始。院内に長期  
滞在できる居室を  
用意、父親も含め  
親となる準備を応  
援。児童虐待防止  
策の一つとして期待  
される



神奈川県病院が近く  
のイオンの店舗に出  
張の「なでしこ保  
健室」を開設。買い物  
がてら気軽に健康相  
談ができると好評



全病院からご一家へのお礼のメッセージと写  
真が機関誌「済生」に掲載。〈石川〉金沢病院



配付されたご一家手づくりのガウンに早速、袖を通す静岡済生会総  
合病院の看護師



京都府病院

## 済生会のあゆみ

5月18日	秋篠宮皇嗣殿下が新型コロナ感染症と闘う全国の医療者と済生会職員に激励のメッセージを賜った
5月22日、29日	手づくりガウンと手書きのメッセージを全病院に配付した
6月	熊本市で開催予定だった第73回済生会学会・令和2年度総会がコロナで中止に
6月4日	手づくりガウンと手書きのメッセージを全病院に配付した
7月1日	ソーシャルインクルージョン推進計画がスタート。誰もが排除されない地域社会をつくることを目指し、生活困窮者支援事業などでのプランの事業を含む全支部施設が合計1641の事業を実施
7月22日	横浜市金沢区に「特別養護老人ホームわかくさ」オープン。同市初のユニット型施設
7月31日	新潟病院敷地に就労継続支援A型事業所「新潟なでしこワークス」オープン
9月1日	（北海道）西小樽病院にあつた重度心身障害児（者）施設みどりの里が小樽病院に移転統合。西小樽病院は廃院となり、済生会病院の数は81に
9月10日	令和2年7月豪雨。熊本県を中心九州から中部地方で豪雨。10県で死者・行方不明者86人。14府県で82人が重軽傷
9月30日	日本維新の会が新型コロナ感染症対策として済生会に1500万円を寄付
10月6日	有馬朗人会長が死去、90歳
11月1日	（岩手）北上済生会病院が同市
11月6日	中心部に新築移転し、開院
11月13日	日本中央競馬会が新型コロナ感染症対策として済生会に5億円を寄付
11月24日	（岩手）北上済生会病院が同市

# 2021

令和3年 創立110年



滋賀県病院の伊藤英介小児科部長は、全国に先駆けて県のチャイルド・デス・レビューのモデル事業を担当。すべての子どもの死因を分析し、再発防止に役立てる



愛知県三河青い鳥医療療育センターに通う鈴木俊介さんが東京五輪の聖火ランナーに選ばれた。コロナでリモートリレーとなり、ディスプレーに大映しとなった鈴木さんのロボットアームから無事、点火



総裁・秋篠宮皇嗣殿下から職員に激励のおことば



三井住友銀行から創立 110 周年の記念品贈呈。住友金属鉱山が制作した「銅滴（どうしき）」は、銅が精錬される際に一滴ずつ落ちる様子をかたどった。済生会も事業を一つずつ重ねて 110 年になったとの祝意



〈茨城〉神栖済生会病院の中村慶春院長が日本内視鏡外科学会（会員約 1 万 4000 人）が選ぶ消化器外科 5 人の「達人」に選定され、同学会で手術手技を披露した



済生会ビレッジのオープニング式典で、北海道済生会の城守副会長（中央左）と近藤真章支部長（同右）が司会進行役として登壇



## 済生会のあゆみ

1月25日	総裁・秋篠宮皇嗣殿下が新型コロナ感染症と闘う4病院長から現場の状況の説明を受けられる。その中で全役職員に激励のメッセージ
2月19日	済生会が取り組むソーシャルリンクルージョンを広く知らせるインターネット・サイト、通称「シンク」がオープン
3月1日	〈和歌山〉有田病院に第2回令和賞。前年2月、日本で初めて新型コロナの院内感染が発生したが、徹底的な対策で封じ込めに成功し、海外からも注目。済生会のブランドイメージ向上に寄与した
3月11日	北海道小樽市の大型商業施設ウイングベイ小樽に、済生会ビレッジがオープン。商業施設に福祉の拠点を開設するのは初めて
4月1日	東日本大震災から10年。復興支援の「岩手」陸前高田診療所や本部事務局で役職員が黙とうをささげる
5月	埼玉県立精神保健福祉センター自立訓練施設「けやき荘」の運営を受託し、開設
5月17日	〈和歌山〉有田特別養護老人ホーム潮光園オープン。済生会54番目の特養
5月30日	済生会がスケールメリットを生かし、医療材料などの共同購入をスタートして10年。累計のコストダウンは3億円を超す
6月2日	経営的に行き詰まつた施設再建・統廃合するための資金を創設
新潟県知事が上越新幹線燕三条駅前に新設する県央基幹病院の指定管理者を新潟県済生会とすることを発表	済生会令和賞の対象を1施設から2施設に拡大。医療と福祉両分野で選考する



東京都国立市はソーシャルインクルージョンの理念を根幹に据えた条例を全国に先駆け制定した。炭谷茂理事長が条例案のスーパーバイザーを務め、永見理夫市長（右）と本会のサイト「シンク」で対談。ダウン症の書家・金澤翔子さんの作品の前で



表彰式を終えて（官邸ホームページより）



今年も全員、看護師国家試験に合格しました。岡山看護専門学校



新型コロナ感染症との闘いでパネルを掲げてお互いを激励する「がんばろうキャンペーン」を「済生」誌上で展開。発案は京都府病院（写真は本部役職員）



新型コロナの感染爆発で医療が逼迫（ひっぱく）した首都圏や大阪市、沖縄県に、国などの要請に応え済生会病院は医師や看護師を派遣した。いずれもギリギリの自院のローテーションから削り出しての派遣だった。写真は〈佐賀〉唐津病院と岡山済生会総合病院から沖縄・浦添総合病院に出向いた看護師



● 7月9日 全病院の薬剤部長・科長で構成する「薬剤部長協議会」が初会合。病院長、福祉施設長、看護部長、病院事務長の会議に続く5番目の職場長会議へ

● 7月12日 済生会の今後10年間の事業方針を審議する検討委員会が発足。全国に7県ある支部空白県に支部を設置することが目玉で、令和4年度中に策定へ

● 8月11・14日 九州北部から中部地方にかけて大雨。28都府県で13人死亡、17人負傷、住宅被害6466棟

● 11月29日 広報室が発行する機関誌「済生」と「ニユース済生」の印刷製本がSDGsの目標にかなうGP（グリーンプリントイング）準大賞に選定され、都心のホテルで授賞式。済生会が取り組んでいるSDGsの目標が12分野から13分野に拡大した

## 2022 令和4年

- 3月18日 元熊本県知事で理事の潮谷義子氏が理事会満場一致で会長に選任。第14代で、初の女性
- 2月27日 総裁・秋篠宮皇嗣殿下ご臨席の下、創立110周年記念式典が東京・明治記念館で開催

● 12月24日 済生会がSDGs推進本部（副本部長・岸田文雄首相）から第5回ジャパンSDGsアワードで副賞を受賞。首相官邸で松野博一長官から炭谷理理事長に賞状が手渡された。1641事業にものぼるソーシャルインクルージョン推進計画を策定し、貧困の撲滅などSDGsの目標と運動する諸事業を展開していることが評価された

### 済生会のあゆみ

● 7月3日 静岡県熱海市伊豆山地区で豪雨に伴う土石流が発生し、死者・行方不明29人、12人重軽傷。後に盛り土が崩落したことが判明



済生会総裁 秋篠宮皇嗣殿下



明治天皇



炭谷 茂 理事長



潮谷義子 会長

済生会、新時代の10年  
—創立101～110年—

2022年5月30日発行

発行  
社会福祉法人 恩賜財団済生会

〒108-0073 東京都港区三田1丁目4番地28号 三田国際ビル21階  
TEL: 03-3454-3311(代)

編集・制作  
東日印刷株式会社

印刷・製本  
株式会社エスティートーニチ